

Once upon a time in Utsunomiya

## 一枚の絵葉書から

石井敏夫コレクションより 第27回

1909（明治42）年、陸軍特別大演習の際、  
外国武官招待場となった宇都宮高女

# 宇都宮高等女学校

大寛町の通りから宇女高の正門を抜けると、すぐに小さな石橋を渡る。操橋である。校地と民有地を分ける新川に架けられた唯一の橋で、生徒のみならず教師も必ずこの橋を渡って校舎に入った。現在ある学校一帯の町名「操町」も操橋に由来。同窓会も「操会」である。操橋は、いわば同校の歴史を刻む象徴的存在だと言つてよい。近年では、星野哲朗作詞、船村徹作曲による「操橋」が、天童よしみによつて歌われ話題となった。

御影石づくりのこの橋は、創立四十周年と大正天皇即位の大典を記念して二九五（大正四）年

に、旧来の木橋を架け替えたもの。校歌に歌われた、「みさをのかがみ学びの友雪にもをれず」の一節に因み、斎藤久米治教諭が命名したといわれる。『二〇年史』

（栃木県立宇都宮女子高）によれば、「架橋費は総額七百五十円で、同窓会から四百四十五円、校友会から二百五十円、職員からの五十円の寄付と、城山村の篤志家から大谷石四百三十本の寄贈によつてまかなわれた」。十月三十一日の天長節（天皇誕生日）に、北川県知事夫妻を先頭に渡り初めの行事が盛大に行われた。今も橋の親柱に「御即位記念」の刻字が残る。

宇女高の前身、宇都宮高等女学校が発足したのは一九〇二（明治三十四）年五月十七日のこと。一八七五（明治八）年に栃木女学校として誕生して以来、幾多の変遷を経てたどりついた発足だった。同年十二月には県立高等女学校規則制定に伴い、本科、補修科、技能専修科の三科制となり、週三時間の英語が教科目に加えられた。

生徒数の増加から〇一年の県会決議を受け、埴田町から現在の大寛町に新築移転したのが〇



現在の宇女高校舎と操橋

三（明治三十六）年四月。敷地二・二三四坪、建坪一・五一四坪、建築費四万九千五百十五円二十四銭五厘と記録されている。十日には入学式と始業式が行われ、新校舎での授業が開始された。先の校歌も同月に制定されたもの。五月には校友会が発足、九月には生徒服装が、十一月には徽章が制定された。（参考文献 前書）

同校は、今年、栃木女学校から数えて創立百三十三年を迎える。



1931（昭和6）年、宇都宮第一高等女学校と改称。創立60周年の絵葉書